

令和7年度第1回京田辺市地域包括支援センター運営協議会議事録

会長あいさつ

議 事

- 1 令和6年度 地域包括支援センター事業報告について
事務局より令和6年度地域包括支援センター事業実績を報告。

(委員)

相談件数について。同じような人口の市町村と比較してどのくらいなのか。常磐苑がなぜ増えたのか、分析はされているか。

(事務局)

相談件数について、同規模の他市町と比べるという点はごもっともな意見であるが、ここでの数字は相談を受けた数ではなく、相談を受けてからさらに直接対応した延べ件数を把握しているため、比較は難しいかも知れない。

常磐苑の圏域が増えているのは、課としても把握している。高齢化が進んでいると考えられ、特に府営団地が増えている印象である。

(委員)

相談件数が増えており、すごいなと感じた。高齢者の人数が増えたからなのか、人員体制が充実したのか、相談する人が増えてきたのか。分析としては、どう考えているのか。

(事務局)

令和5年度より2000件増えたのは、課としても驚いている。常磐苑については、1件1件のケースにおいて、複雑な課題のあるケースが増えてきている。その場合、1件に対する対応件数が増えていくことが要因になっている。

(委員)

包括だよりの発行について。診療所にも配布してもらっているのか。診療所の待合室にも置いてもらえたなら。

(事務局)

昨年度から回覧板で広く見ていただけるようにしている。他に民生委員を通じて、高齢者に配布。医院にも置かせていただければと考える。

(委員)

患者さんの中で認知症の家族から相談を受けることがある。交流会はどのような内容なのか。

(事務局)

認知症の方を介護されている人同士が集まる場。宝生苑とミライロにて実施している。ファシリテーターをおいて会を進行している。介護の難しさや悩みを話してもらい、情報共有できる場。気持ちが楽になるよう、この会をきっかけにつながり、友人のような、同志のような関係になる方もいらっしゃる。リピーターが増えている。家族が疲れているようであれば、本人の支援と併走して家族も支援している。

(委員)

実施回数および人数などの表記内の○が太い黒丸、薄い黒丸があるが意味はあるのか。

(事務局)

それぞれの担当が入力したため、フォントが違った。特に意味はない。

2 令和6年度 市町村と地域包括支援センターの評価指標について
事務局より令和6年度市町村と地域包括支援センターの評価指標を報告。

(委員)

介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者との意見交換の場を設けているとなっているが、12月11日の在宅医療介護連携会議は、歯科医師会は休んでいたのか。

(事務局)

欠席の連絡を受けていた。

(委員)

地域における関係機関・関係者のネットワークについて、構成員・連

絡先・特性等に関する情報をマップまたはリストで管理しているかの部分で、地域資源システムを導入して、現在は一部の介護支援専門員への周知とされていたが、今後どの程度の規模感で増えていくのか。医療関係者への周知予定はあるか。

(事務局)

地域資源システムの活用について現在は地域包括支援センターと市内の居宅介護支援事業所のみ使用可能。地域資源を取り入れたケアプランを作成してもらいたいため。ゆくゆくは拡げていきたいが、まだ詳細には決まっていない。マップに載せていくたいと思っている事業所の意向も確認していかないといけない。

(委員)

山城北保健所での会議でも話題になり、載せられる側の意向もあり、なかなか進まないという話も聞くので、もっと広まればよいなと思う。

- 3 令和8年度地域包括支援センターあんあん宝生苑一時移転について
事務局より大住ふれあいセンターリニューアル工事に伴う休館のお知らせについて説明。

(委員)

移転した際に、電話番号が変わることはあるのか。

(事務局)

同じ電話番号で移転できるように業者と調整中。関係者のみなさんになるべくご不便をかけないようにしたい。